

年中行事の展示件数は1月の「正月・しめ飾り」から12月の「ヨウカゾウ」まで16件ありますが、「小正月飾り」・「七夕」・「原家夏座敷」・「雪囲い」の4件を除いて、それらの飾り付けと撤去は展示チームが行っています（第3章チーム活動も参照）。

年中行事は代表的な日本古来のしきたりと季節の行事を再現したものです。これらの年中行事の展示を手伝うことによって、日本の農村で実際に行われていたしきたりや行事に触れることができることは、貴重な体験になっています。

各年中行事で使用する材料・道具の所在場所や、飾り付け方法の概要は園より配布された冊子「年中行事」や園所有の写真に示されています。飾り付け作業は園職員の指導と冊子に従って行っていますが、分からないところは調べたり、特に「ひな祭り」のひな段飾り、「五月飾り」の武者人形飾り、「盆行事」の砂盛りは複雑な作業が多いので、作業手順書を作ったりしています。

参加人員は、人手のかかる「正月・しめ飾り」、「ひな飾り」、「五月飾り」、「盆行事」は十数人、その他の行事は十人程度で、男女それぞれ出来る仕事を分担して行っています。

4-5-1

正月・しめ飾り

(1) 正月・しめ飾り

「正月・しめ飾り」は新しい年を迎えるための準備をする行事で、12月中旬から1月上旬まで北村家と作田家でそれらの展示をしています。

部品の数と細かい作業が多いため時間がかかるので、多くの人手が必要です。北村家の「正月飾り」は5つの神様の神棚と仏壇・床の間にしめ縄、しめ飾り、榊と松の束、南天、お供え餅などを供えます。その他に、しめ飾りを表と裏の出入り口に、餅つき用具を土間とヒロマに、土間に面した柱に煤払いの篠竹を飾ります。

作田家の「ししまど」に12月中旬から1月上旬まで、東北地方から九州地方までの各地のしめ飾り20点以上を展示します。しめ飾りにはウラジロ、ユズリ葉、ダイダイ、シメを付けますが、ウラジロは近くの林に自生するシダで代用し、ダイダイは北村家前庭のミカンで代用し、ユズリ葉は北村家屋敷内で調達し、それらの取り付けに苦労しています。また、しめ飾りの取り付け位置も写真ではよく分からず、その位置決めに毎年苦労しています。正月飾りは1月上旬、園で



正月飾り・しめ飾り



小正月飾り

撤去しています。

(2) ヨウカゾウ飾りの撤去

「正月・しめ飾り」の飾り付けを行った日、北村家前庭に12月上旬園が立てた「ヨウカゾウ飾り」のかごの撤去を行っています。竹竿を倒し、先端に取り付けてあるかごを竹竿より外し、竹竿は北村家裏の竿置場に収納します。

4-5-2 節分・ヨウカゾウ

(1) 節分飾り

「節分」は邪気を払うための豆まきが行われる行事で、1月下旬から2月上旬まで北村家で「節分飾り」を展示しています。

いろいろの横に餅のし板を置き、その上に5合升に大豆を入れて置きます。また、いろいろに鍋を吊るし灰の上に鉄板を置き、ナスの枯れ枝と豆がらを置きます。表口と裏口の柱にイワシの頭とヒイラギを付けた「蘇民将来子孫門也」と書いてある札を取り付けます。



節分飾り

(2) ヨウカゾウ

川崎では2月8日と12月8日を「ヨウカゾウ」と呼び、妖怪一つ目小僧を退散させるために目の多いカゴを家の前に高く掲げました。1月下旬から2月上旬まで北村家前庭で展示しています。長さ約4mの太い竹竿の先に粗目かごを取り付け、前庭の所定場所にある穴に竹竿を入れて固定します。



ヨウカゾウ飾り

(3) 小正月飾りの撤去

「節分・ヨウカゾウ」の飾り付けを行った日、1月中旬に民具製作技術保存会が飾り付けた「小正月飾り」を撤去します。北村家の神棚、仏壇に飾ってあるマユダマ10本、アワボ・ヒエボ15本、ケズリカケ5本を取り下げます。マユダマとモノヅクリの団子は枝より取り外しごみとして捨てます。モノヅクリ、マユダマ、アワボ・ヒエボ、ケズリカケ、タタキボウ、スイジンサマの木・竹は30cm程度に切って薪置き場に置きます。

4-5-3 ひな祭り

(1) ひな人形飾り

「ひな祭り」は女子の健やかな成長と、幸いを祈る行事で、2月中旬から3月上旬まで原家と北村家で「ひな人形」を飾り展示しています。

ひな段の各材料には番号や印が付いているので、それに従って7段の棚段を組み立てます。段に緋毛氈を左右きちんと揃え画鋏で止めますが、この作業に意外と時間がかかります。人形とその付属品は各々紙で包まれているので、壊さないように丁寧に解包します。人形は各付属品を付けて組み立てますが、部品が細かく壊れ易いので細心の注意を払って取り扱っています。部品の数が多く、なかなか探せない場合もあるので、時間がかかっています。男性は主に棚段の組み立てを、女性は主に人形の組み立てを行うように作業を分担しています。2ヶ所のひな段の飾り付けには約2時間か



ひな人形飾り付け作業



ひな人形飾り

かります。春が近づいたと感じるときです。

(2) 節分・ヨウカゾウ飾りの撤去

「ひな人形飾り」を行った日、北村家の前庭に1月下旬に立てた「ヨウカゾウ飾り」のかごを撤去しています。方法は12月中旬に撤去した「12月ヨウカゾウ」と同じです。「節分飾り」の豆、升とヒイラギとイワシの頭、のし板は所定場所で保管します。

4-5-4

蚕影山縁日

(1) 蚕影山縁日飾り

蚕影山祠堂の縁日は3月23日(旧暦2月23日)でした。蚕の神様への感謝と豊作を願うこのお祭りを再現するため毎年3月中旬から下旬に蚕影山祠堂で「縁日飾り」の展示を行っています。

まず、覆堂内部と外部を掃除します。次に、丸い形とマユの形をした紅白の団子を葉の付いたカシの木の枝に挿しこれをお堂の上下、左右に飾ります。また、数個のマユを糸で縛って結び、覆堂の格子に吊るします。3個の



蚕影山縁日飾り付け作業

三方に果物、野菜（いも）を載せお堂の前の床に置きます。祠堂の前に幟を2本立てます。お祭り終了後、幟と飾りは園職員が撤去します。

（2）ひな祭り飾りの撤去

「蚕影山縁日飾り」を行った日、原家と北村家に飾ってある「ひな祭り飾り」の撤去を行っています。

ひな人形は人形本体と付属品をそれぞれ1個ずつ紙で包み、所定の箱に収納して原家、北村家の所定の場所に保管します。品数が多いので処理するのに時間がかかります。段飾り用の棚の部品は分解し、まとめて束ねて原家、北村家の各々の所定の場所に収納し保管します。

4-5-5

五月飾り

「5月飾り」は男児の成長と出世をお祝いする「端午の節句」に行われる「五月人形」を飾り「武者幟」を立てる行事で、4月中旬から5月中旬まで原家と北村家で展示をしています。



武者人形の段飾り作業



武者幟の竿立て作業

（1）原家内飾り

原家のブツマに「兜」の飾り付けを行います。畳の上に緑色の布を敷き、その上に金屏風を立てその前に「兜」を中心に右側に花菖蒲、左側に木札を置きます。前方に三個の三方を置き、それぞれに柏餅・菖蒲・ちまきを載せます。

（2）北村家内飾り

北村家のオクに3段の「武者人形」を飾ります。まず、棚段の組み立てを行いますが、細部の組み立て方法はさらに写真や図面により手順書の形に纏めてあります。飾り物の部品で痛んでいるものもあるので、細心の注意を払って取り扱っています。上段には幟台に幟など9本を立て、風で台が倒れないように紐と画鋏で固定します。中段には鎧を中心に武士の調度品類を



原家兜飾り

並べ、下段には花やお供え物を並べます。

(3) 北村家外飾り

園職員の指導により、前庭に武者幟3本と鯉幟を立てます。前庭の所定場所の竿穴に鯉幟用の木竿を立て、添木にボルトで固定し、鯉を吊り下げるロープを張ります。武者幟用の竹竿3本は先端に櫛を付け、所定の竿穴に立て、共通の支柱に縛り固定します。これらの作業は力仕事のため、男性が数人がかりで行っています。



北村家武者人形飾り

4-5-6 マンガアライ

(1) マンガアライの飾り付け

「マンガアライ」は田植えが終わったお祝いの行事で、5月中旬から6月中旬まで清宮家の土間で「マンガアライ飾り」を展示しています。

飾り付けに使う材料や道具は、清宮家の土間と隣の農具小屋の下屋に保管してあります。清宮家の土間にムシロを敷き、その上に田植えで使った鍬・マンガ（人用・馬用）・馬鋤・コロガシ・天秤棒と平ざる等の農具やソバと天ぷらと櫛を挿したお神酒徳利を載せた角盆のお供え物を設置します。



マンガアライの飾り付け作業



マンガアライ飾り

(2) 五月飾りの撤去

「マンガアライ飾り」の飾り付けを行った日、「五月飾り」の撤去を行っています。「原家の内飾り」と「北村家の内飾り」は各材料・部品に分解し、壊れたものは補修して丁寧に個々に紙で包み、所定の袋または箱に収納して、所定の場所で保管します。段飾りの棚段は各部品に分解し一括して束ね、所定の場所で保管します。「北村家外飾り」は鯉幟用木竿と武者幟用竹竿を固定してある支柱から外し、倒します。竿の先端に付けた櫛は取り外し袋に入れて北村家の所定の場所で保管します。竿と支柱は北村家の裏の竿置き場で保管します。竿の取り外しは力仕事のため、男性数人で行って

ます。

4-5-7

盆行事

盆行事は祖先の霊を迎え慰める行事で、「盆棚飾り」と「砂盛り飾り」を7月下旬から8月中旬まで、北村家で展示しています。

(1) 盆棚の飾り付け

「盆棚飾り」は北村家があった秦野地方の様式に倣っています。仏壇の前に盆棚を作ります。まず、盆棚周囲に篠竹4本の柱を立て竹の間をしめ縄で結びます。しめ縄にはイネ・ホウズキ・クリ・カキ・サトイモなどを取り付けます。壁に掛け軸をかけ、棚には仏壇にあった位牌や仏具、野菜・果物・ソバ・オハギなどを供えます。これらの飾り付けの作業は主に女性が行っています。



盆棚の飾り付け作業



盆棚飾り

(2) 砂盛りの作成

「砂盛り」は篠竹と土・砂で屋敷の入口に作ります。篠竹は園内の群生場所から直径1cm以上の太いものを十数本取ってきます。このうち4本は盆棚に使います。砂



砂盛り作り作業



砂盛り飾り

盛りの大きさは、一辺の長さが一段目約45cm、二段目約30cm、高さは一段目約30cm、

二段目約 5cm で、周囲を篠竹で丸太小屋のような壁を作り、中に水で捏ねた土を入れて固めます。これに周囲を竹で囲み、土で固めた階段を付けます。砂盛りの土の表面全体に砂をかけて化粧して完成させます。この砂盛りの上段にナスの牛、キュウリの馬を置き、盆花を飾ります。真夏の炎天下で作業をするため、作業時間をできるだけ短くするように作り方の手順書を作ることを考えています。この作業は男性だけで行っています。

4-5-8

十五夜

(1) 十五夜飾り

「十五夜」は秋の収穫物を供えて名月を愛でる行事で、「十五夜飾り」は8月下旬から9月上旬まで、北村家で展示しています。

オクの机の上に供え物を設置します。供え物はどんぶりに載せた団子、皿に載せた豆腐、サツマイモ・サトイモ、柿・栗などとお神酒徳利です。また、花器にススキ、



十五夜飾り付け作業



十五夜飾り

オミナエシなど秋の七草を生けます。「十五夜飾り」は9月中旬、職員が撤去します。

(2) 盆行事の撤去

「十五夜」の飾り付けを行った日、「盆行事」飾りの撤去を行っています。「盆棚」を飾った各材料のうち、レプリカは袋に入れ所定の箱に収納し、所定場所で保管します。生ものは廃棄し、位牌・仏具は仏壇に戻します。

「砂盛り」で使ったレプリカの牛・馬・盆花は袋に入れ所定の箱に収納し、所定場所で保管します。砂盛りで使った篠竹は付着している土を拭い、薪置き場に置きます。土と砂は近くの木の根元に戻します。

4-5-9

刈り上げ

(1) 刈り上げ飾り

「刈り上げ」は稲を刈り上げ、無事作業が終ったことを神に感謝する行事で、「刈り

上げ飾り」は10月上旬から10月下旬まで、北村家で展示しています。飾り付けは簡単で、台（餅のし板）の上に稲束、鎌2本、角盆に小豆粥と榊をさしたお神酒徳利を置きます。

4-5-10 扱き上げ

(1) 扱き上げ飾り

「扱き上げ」は稲をすべて扱き上げた時に行うお祝いの行事で、「扱き上げ飾り」は10月下旬から11月中旬まで、清宮家土間で展示しています。

飾り付けに使用する材料・道具は清宮家土間と隣の農具小屋の下屋に保管されています。土間にムシロを敷き、その上に千歯扱ぎ・稲束・箕・唐箕・唐臼・唐箕・くり棒・万石通し・臼等を置きます。この飾り付けには唐箕などの大きい物や、臼などの重い物を移動させるなどの力仕事があります。

(2) 刈り上げ飾りの撤去

「扱き上げ飾り」の飾り付けの日、「刈り上げ飾り」の撤去を行っています。飾りに使用した材料・道具は所定の箱に入れ、所定の保管場所に戻します。

(3) 扱き上げ飾りの撤去

「扱き上げ飾り」は11月中旬展示終了後撤去し、使用した材料・道具を元の保管場所に戻しておきます。



刈り上げ飾り



扱き上げ飾り

(編集委員 11期 木曜 長谷川)